

野洲市環境基本計画「自然分野」のプロジェクトの成果と見直し項目（20120326 井手）

＊「自然分野」のプロジェクト（PJ）

- ① 「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり
- ② 野洲の里山の自然に触れよう、知ろう
- ③ 野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう
- ④ 山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう
- ⑤ 葦地帯をみんなで増やそう
- ⑥ 琵琶湖を身近なものにしよう
- ⑦ 内湖の復活で琵琶湖を守ろう
- ⑧ まちなかの緑ボリュームアップ大作戦
- ⑨ 河畔林の再生
- ⑩ 鎮守の森再生
- ⑪ 環境保全型農業推進計画

1. 「成果と見直し項目」の検討方法

（1）野洲市環境基本計画での記載と、各年度の PJ 活動報告との比較による検討

当初、検討は、

＊記載された「内容・手法」が、実施されているか？

＊記載された「評価基準」のデータが、記載されているか？

＊「評価基準」のデータは、目標数値に達しているか？

の3つの視点で、行う予定であった。しかし、3番目については、そもそも「評価基準」の「目標数値」が、基本計画に記載されていないので、1番目と2番目についてのみ検討する。具体的には、実施・記載の有無、である。なお、23年度の資料は実質的に無いので、19年度～22年度までの活動報告に基づく。

（2）各 PJ 実施市民による PJ 振り返り（付箋）のまとめ、による検討

23年度に実施された「PJ 振り返り」では、「1. 出来たこと」、「2. やりたかったが、出来なかったこと」、「3. こうしたら、もっと活動が進むかも」、の3点について、各 PJ 実施市民の方がポストイット（付箋）に記入された資料がある。

「成果」は「1. 出来たこと」に、「見直し項目」は「2. やりたかったが、出来なかったこと」＋「3. こうしたら、もっと活動が進むかも」に対応している（正確には、各 PJ 実施市民の視点から）。

2. PJ の成果と見直し項目

（1）成果

全体として、PJによって、精力的に活動できているところとできていないところの差が大きく、計画に謳われていながら未実施の事業が大部分のようです。

各 PJ ごとの主な成果は、以下の通りである。

①「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり

*家棟川エコ遊覧船の運航。河川環境学習船（家棟川エコ遊覧）やホテルの住める川づくりの実践などの実施（延べ 2990 人参加）。

*非常に精力的に活動されていることが伺えます。今後もこれまでの活動を継続していただくとともに、活動地域ごとの活動や人をつなぐ役割（川は山と里、湖をつなぎます）や市域を超えた他地域との連携の核となることも期待したいと思います。

②野洲の里山の自然に触れよう、知ろう

*里山自然体験学習会などの開催（499 人参加）。

③野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう

*報告書に記述なし

④山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう

*里山保全活動の実施（30 回以上、延べ 410 人参加）。

⑤葦地帯をみんなで増やそう

*ヨシ苗づくり体験学習やヨシ植えイベントなどの開催（858 人参加）。

*地元の中主小学校でのヨシ苗ポット作りは、霞ヶ浦のアサザプロジェクトからヒントを得たのでしょうか。ヨシ植えイベントを含めて、おもしろい試みだと思います。漁民の森づくりも、流域（森と湖のつながり）を意識した、おもしろい試みだと思います。

⑥琵琶湖を身近なものにしよう

*家棟川エコ遊覧・湖魚の伝統食試食・砂浜学習やあやめ浜まつり、漁民の森づくりなどの開催（1445 人参加）。

⑦内湖の復活で琵琶湖を守ろう

*内湖の環境学習会の開催（83 人）

⑧まちなかの緑ボリュームアップ大作戦

*保全活動の実施（36 回）や野洲川自然観察会などの開催（479 人参加）。

⑨河畔林の再生

*報告書に記述なし（⑧と合同実施）

⑩鎮守の森再生

*報告書に記述なし（⑧と合同実施）

⑪環境保全型農業推進計画

*環境保全型農業学習会や生き物観察会の開催（延べ 510 人参加）

*田んぼでの生き物観察会などはおもしろい試みだと思います。

(2) 見直し項目

1) 全体その1

基本計画記載の各PJの「評価基準」について、活動報告に値が記載されていないものがほとんどのようです。把握できるものはきちんと報告し、把握が困難なものに関しては、今回の見直しにおいて評価基準から削除してはどうでしょうか。

2) 全体その2

自然分野のプロジェクトは良く言えば網羅的ですが、悪く言えばメリハリがない(野洲市としての特徴がみえない)散漫な印象をもちます。「山」「川」「湖」の“つながり”をもう少し意識したプロジェクト単位にしてはどうでしょうか。プロジェクトの中の事業としては、流域としてのつながりを意識した取り組みも見られるようですが、プロジェクトの単位(活動地域)が「川」「山」「湖沼」「緑地」「農業」に明確に分かれているため(その分わかりやすいですが)、どうしてもバラバラに活動が行われている印象をもちます。もっと意識的にプロジェクト間の活動の連携や相乗りを企画実施されてはどうでしょうか。流域として「山」「川」「湖」がつながっているというメッセージが弱いような印象をもちます。計画書でも、野洲市は「日野川と野洲川に囲まれている」といった表現になっていますが、両河川は天井川で、市域そのものは家棟川の流域とほぼ一致しています。これは県内でも非常にめずらしいことです。そのことを野洲市の特徴としてもっとアピールされたらいいと思うのですが。

3) 各PJごとの主な見直し項目

①「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり

*おらが川自慢大会／川の維持管理(浚渫)／ハード整備の実施。

②野洲の里山の自然に触れよう、知ろう

*里山を保全・活用する協議会の組織化。保全活動とイベントとの両立。

* (②+③+④) 里山の保全整備には人手を必要とします。継続的に活動に参加してもらえるメンバーを確保することが課題でしょうか。そのためには県内の老舗的な関連団体に学ぶことも必要だと思います。イベントとしては、もう少し子どもを対象としたものを増やしてはどうでしょうか。子どもにはかならず保護者が付いてきますから、参加者のすそ野の拡大につながると思います。活動が里山に限定されすぎている印象をもちます。山と湖とのつながりを知ってもらえるようなイベントの企画はどうでしょうか。

③野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう

*PJとして実績データなし。

④山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう

*アンケート調査やニーズ調査の実施／間伐材などの利活用。

⑤葦地帯をみんなで増やそう

*ヨシの植栽面積（実際の定着面積）は？

*小学生へのヨシ帯での水鳥や魚類の観察会なども実施できれば、ヨシ苗ポット作りの意義がより伝わるのではないのでしょうか。

⑥琵琶湖を身近なものにしよう

*アンケートによる琵琶湖環境への関心度調査は？

*イベントは継続することに意味があります。あやめ浜まつりを継続していただくとともに、各プロジェクトの活動報告会のような性格ももたせてはどうでしょうか。

⑦内湖の復活で琵琶湖を守ろう

*内湖再生事業計画の策定。

⑧まちなかの緑ボリュームアップ大作戦

*緑化計画の策定や緑化モデル実施区域の設定は？ 緑化面積は？

*（⑧+⑨+⑩）「緑」ということでこれらのプロジェクトがグルーピングされているのだと思いますが、やられている活動内容からすると、かなり異質なものが合体している印象を持ちます。他のプロジェクト（他の分野も含む）との再編も考えてみてもいいかもしれません。

⑨河畔林の再生

（⑧と合同実施）

⑩鎮守の森再生

（⑧と合同実施）

⑪環境保全型農業推進計画

*県実施事業（環境こだわり農産物認証制度、魚のゆりかご水田事業）との仕分けは？

*生産者の意識向上につながる活動や、市全体の地産地消への取り組みと連携する方向性が見えてくるとより良い活動になると思います。

4) その他

各PJの計画内容が、a)市民の自主的活動で実施可能なものと、b)行政との協働が不可欠なもの、c)主に行政が主体的にやるべきものが混在しているようです。計画書で謳われて、実質的にもできていない活動の中にはb)やc)のものが少なくありません。計画の見直しの際には、これらを区別し、PJの計画を策定することを勧めます。

以上